

亞使徒聖ニコライに依頼する祈禱

※(モレーベンには様々な形式があるので、後述の「諸聖人に依頼する祈禱」形式を用いるも可。但し、ここでは全国公会時に用いられる形式にて掲載する。)

輔 司 君や、祝讃せよ。

司 我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に。

詠 アミン。

天の王慰むる者や、真実の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者や、萬善の寶藏なる者、生命を賜うの主や、来たりて我等の中に居り、我等を諸の穢より潔くせよ、至善者や我等の靈を救い給え。

主は神なり

輔 主は神なり我等を照らせり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。

詠 主は神なり我等を照らせり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。(三次)
(句) 主を尊み讃めよ、彼は仁慈にして、その憐は世世にあればなり。

(句) 彼等我を圍み我を環れども、我主の名を以て之を敗れり。

(句) 我死せず、猶生きて主の行う所を傳えん。

(句) 工師が棄てし所の石は屋隅の首石となれり、是主のなす所にして我等の目に奇異なりとす。

トロパリ (第四調)

詠 使徒と等しく同座なる者、忠実にして神智なるハリストスの役者、聖なる神に選ばれたる笛、ハリストスの愛に満ちたる器、我が国の光照者、亞使徒大主教聖ニコライよ、爾の牧群の為、及び全世界の為に、生命を保つ聖三者に祈り給え。

※ 聖人に依頼する句 (第一回)

司 亞使徒日本の大主教聖ニコライや、我等の為に神に祈り給え。

詠 聖使徒日本の大主教聖ニコライや、我等の為に神に祈り給え。
司 聖使徒日本の大主教聖ニコライや、我等の為に神に祈り給え。
詠 聖使徒日本の大主教聖ニコライや、我等の為に神に祈り給え。
司 光栄は父と子と聖神に帰す、
詠 今も何時も世世に、アミン。

聖使徒日本の大主教聖ニコライや、我等の為に神に祈り給え、我等熱切に、爾速なる扶助者、及び我等の靈の代求者に趨り就けばなり。

輔 睿智。

ポロキメン

誦 聖人の死は、主の目の前に貴し。
詠 聖人の死は、主の目の前に貴し。
誦 我何を以て主の我に施しし悉くの恩に報いん。
詠 聖人の死は、主の目の前に貴し。

誦 聖人の死は、
詠 主の目の前に貴し。
輔 主に祈らん。
司 主憐めよ。
蓋我が神や、爾は聖にして聖なる者の中に居る、我等光栄を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に。

詠 アミン。
輔 凡そ呼吸ある者は、主を讃め揚げよ。
詠 凡そ呼吸ある者は、主を讃め揚げよ。
輔 神を其聖所に讃め揚げよ、彼を其有力の穹蒼に讃め揚げよ。
詠 凡そ呼吸ある者は、主を讃め揚げよ。
輔 主を讃め揚げよ。
詠 我等に聖福音經を聴くを賜うを主・神に祈らん。
輔 主憐めよ。
(三次)

輔 睿智、肅みて立て、聖福音經を聴くべし。
司 衆人に平安。
詠 爾の神にも。
司 マトフェイ伝の聖福音經の読み。
輔 主や、光榮は爾に歸し、光榮は爾に歸す。
詠 謹みて聴くべし。

福音 (マトフェイ伝 七・二四―八・四)

「主曰えり、凡そ我が此の言を聞きて之を行う者は、我之を磐の上に其家を建てたる智き人に譬えん、雨降り、河溢れ、風吹きて其家を撞ちたれども、倒れざりき、磐の上に基けたればなり。凡そ我が此の言を聞きて之を行わざる者は、沙の上に其家を建てたる愚なる人に譬えられん、雨降り、河溢れ、風吹きて其家を衝きたれば、倒れたり、且其倒は大なりき。イイスス此等の言を竟えし時、民其訓を奇とせり、蓋彼等を教えしこと權ある者の若し、学士及びファリセイ等の如きに非ず。彼山を下りしに、衆くの民彼に隨えり。視よ、癩病の者来り

て、彼を拝して曰えり、主よ、爾若し望まば、我を潔むるを能す。イイスス手を伸べて、之に触れて曰えり、我望む、潔まれ、其癩病直に潔まれり。イイスス之に謂う、慎みて人に告ぐる勿れ、乃往きて、己を司祭に示せ、且モイセイの命ぜし禮物を献じて、彼等に證を為せ。」
主や、光榮は爾に歸し、光榮は爾に歸す。

※ 聖人に依頼する句 (第二回)

司 亜使徒日本の大主教聖ニコライや、我等の為に神に祈り給え。
詠 亜使徒日本の大主教聖ニコライや、我等の為に神に祈り給え。
司 亜使徒日本の大主教聖ニコライや、我等の為に神に祈り給え。
詠 亜使徒日本の大主教聖ニコライや、我等の為に神に祈り給え。
司 光榮は父と子と聖神に歸す、
詠 今も何時も世世に、アミン。
司 亜使徒日本の大主教聖ニコライや、我等の為に神に祈り給え、我等熱切に、爾速

なる扶助者、及び我等の靈の代求者に趨り就けばなり。

重 聯 禱

輔 神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。
詠 主憐めよ。(三次) [以下毎時同様]

輔 又、此處に集まりし神の諸僕(婢)及びハリストスを愛する悉くの兄弟姉妹等に、慈憐、生命、平安、壮健、救贖及び諸罪の赦しを賜わんが為に祈る。

輔 又、我等罪なる者の祈りを聞き入れて、我等を憐むが為に祈る。

司 蓋爾は至聖至仁にして生命を施す主なり、故に我等父と子と聖神を讃揚す、今も何時も世世に。

詠 アミン。

輔 睿智。

司 至聖なる生神女や、我等を救い給え。

詠 ヘルワイムより尊くセラフイムに並びなく榮え、貞操を破らずして神言を生み

し、実の生神女たる爾を崇め讃む。

司 ハリストス神我等の恃や、光榮は爾に帰す、光榮は爾に帰す。

詠 光榮は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。主憐めよ(三次)。福を降せ。

司 ハリストス我等の真の神は、其至淨なる母、克肖捧神なる吾が諸神父、亜使徒日本の大主教聖ニコライ、及び諸聖人の祈祷に因りて、我等を憐み救わん、彼は善にして人を愛する主なればなり。

詠 アミン。

幾 歳 も

輔 主よ、今此處に立ちて祈る爾の諸僕(婢)「某」に、萬福にして平安なる度生、
詠 壮健と救贖、及び萬事に於ける善き進歩を與えて、彼(等)を幾歳にも護り給え。
幾歳も。(三次)